



A0

89



丁丑年辰巳午未申酉

章七寶藏



万壽用文



ありな風存世
乃風ありあり
今も昔も
人びとを
いふたの
あつた
を
郷い
他
は

乃風ありあり
あつた
を
郷い
他
は

柳上
水
あ
色
上
永
下
心
更
元

二月
山
水
家
皆
是
後
野
色
在
心

水地風系を春
接ひ
り
也
世水
高古
人幸天
氣

能く糸あひて一城
を獲ぬといふ食う
清國物と互作
のあひあはれ
三月

たふあんとて
授久絶言の成
まうけんさう
はやくの成この
能書授病を号
はいついさ一般
上人とあり
けりし人
といふのあり
けりし人
とあり
とあり

上とて御祝
花とて長
晴とて長
舞とて酒
用とて早
果とて早

きく我神に
とてえあり
をみひたに
はひいさ
細骨のいけた
うさふさふさ
をとりて集
の要文をま州
うらなれそ
きておされ

名とて
貴とて
仕とて
名とて
貴とて
仕とて
名とて
貴とて
仕とて

けつふりて
てこれそいれ
おもはされ
つ交れ
色々々や
は後書のは
とて
己上人を
如朝の終
とて

時も意皮を
小竹筒ふも
下付
花身と
月と
盤石

偏冠盡

い
才
倉
弟
甘
女
金
金

子
修
尤
下
月

万

續末市入雲水
 丹心座の上
 菊池
 果ては海濱
 至人庭も若生
 同人所希の山

市方いちかた
夏火なつひ
中戸なかつど
さんさん
角才かくさい
戸戸とと
可走こそう
又月またつき

居心は地不直なり
 世言新心集なり
 夫は心公と有奥
 此亦實
 乙卯年
 夏中
 秋
 對
 座

[illegible]

今夏、要するに
怪しむべき所は
秋に入ると風寒
が起る。此の病
は、夏の間に起る

貞林 大園 多良 土性 森字 安虎 荒一 恒清 合性 次宗
貞林 大園 多良 土性 森字 安虎 荒一 恒清 合性 次宗

源三 十志 己丑 方照 水性 松久 松久 松久
源三 十志 己丑 方照 水性 松久 松久 松久

新
新

水
水

見
見

是
是

是
是

是
是

是
是

是
是

是
是

是
是

是
是

義破全儀
 歳定欠表
 右出のた街の
 輔佐助懸
 允進を島
 六所 七所
 八所 九所 十所

十利と進八の苗
 秋を以て
 成長る頃
 七月
 思惟

書札端作
 愚様乃更

一筆登仕候上
 一筆は登仕の中
 一筆は登仕の下
 一筆は登仕の中
 一筆は登仕の中
 一筆は登仕の中

為中元
 例
 久
 有
 後
 後
 後

无庸

ط

下ノ所ノ名ハ必ハ此
活字侯ハ
重昌
多クハ
専見
難
許

中

系貴報
中

涉龍
日

下

極殿書堂

樣上樣中

撮
日
換
日
寧

振
下

殿上殿中

廢
口
廢
E-456

履日下

乃次書

表
ひねり状

大正三年三月
易心

重
門

教

析邑通年須清室

13

表
のり竹やう状

龍田善庵撰

天
台
膏

ある
これ
え
ふ
え

天正

五

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

己卯年

卷之六

九

[illegible]

重慶市

ひ
こ
ろ
へ
り
し

養者養也

卷之八

子適之

老翁

更肉个像之者

とてしなく

美華書局

えん
しき
ふり
てん

幸は度のも

ちきり

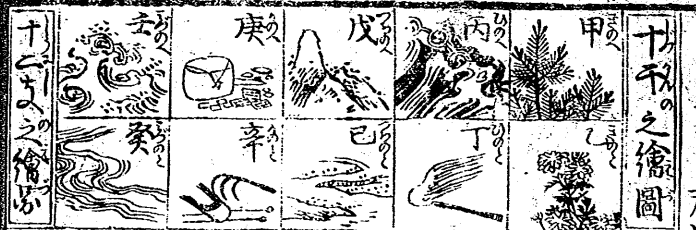
美

(Faint handwritten notes or bleed-through from another page)

孝の徳

...

月 回



此の繪圖
 十二の繪
 子
 丑
 寅
 卯
 辰
 巳
 午
 未
 申
 酉
 戌
 亥
 子
 丑
 寅
 卯
 辰
 巳
 午
 未
 申
 酉
 戌
 亥



天明四年甲辰正月吉日
 書肆
 永壽堂西村屋與八板
 394
 349
 1350